

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2874700426		
法人名	かすみ福祉サービス有限会社		
事業所名	グループホーム赤とんぼ		
所在地	美方郡香住町香住区守柄1351番地		
自己評価作成日	2019年4月26日	評価結果市町村受理日	2019年6月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 介護福祉士は、現在4名、介護専門員は、2名ですが、さらに、資格者を増やしたい。(結果的に、質の向上につながる。)
2. 現在、原則週休3日制、夜勤勤務は原則週1回で十分な休憩を与える事。(結果的に、質の向上につながる。)
3. 賃金について、日勤者は会社社長よりも多い。(結果的に、質の向上につながる。)
4. 生活困窮者には、支払い能力内を目指し、また実行しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2874700426-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2874700426-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山間部にある事業所は、赤白緑をあしらった目を惹く看板が設置され、自然豊かな環境の中に民家を改修し、「家庭的」な環境のもと利用者や地域の方を含めた支援が行われている。近隣には医療や商業などの資源が少ない環境にありながら、管理者は地域住民との関わりを持つための行事など、地道な取組を通して「地域住民と互いに助け合う」仕組みを熟成させている。事業所で暮らす利用者の表情は穏やかで、利用者が幸せに暮らせるような暖かな配慮が、管理者や職員からの聞き取り、居室内の仕様や食事など、あらゆる場面で覗うことができた。今後、事業所の取組を振り返る「記録」の整備を通して、理念や精神を受け継ぎ、唯一無二の事業所としてあり続けてほしい。
---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 はりま総合福祉評価センター		
所在地	姫路市安田三丁目1番地 姫路市総合福祉会館内		
訪問調査日	2019年5月29日		

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 評価	第三者 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者は、介護職員から、利用者の日常状態を聞き取り、「現状と分析」「分析から現状の問題点を踏まえ、改善策を、介護者と共につくりあげてゆく」「その結果、効果と未達成の検討」を分析し、次回に「推進会議に提案し」より達成を目指して、効果的、深みのある「モニタリング」である。	事業所の理念には、管理者が若いころから長年に亘っての想いである「人と地域への感謝と恩返し」が3項目に集約され、玄関に掲示されている。職員はそれらを念頭に置いて日々、実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域とのつきあい 別紙資料①から分かるように、67%が歩行困難のため、出かけることが困難であり、地域は過疎中の過疎で高齢者が大半であり、日常的に交流できません。秋祭りは御輿が施設敷地内での交流があります。	事業所は自治会に加入しており、地域の季節行事(秋祭り、豆まきなど)に参加している。管理者が企画・準備し、事業所を中心に開催される行事も多く、ご近所さんから頂いた梅で梅干し作り、赤ちゃんセラピーの開催、お地藏さんや角松などは管理者が自ら設置するなど、事業所理念の基に事業所は地域の集いの場となるようキッカケを創造し、実践している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献 秋祭りには、施設利用者が「菓子類」を手渡しで、「地域の子供達」は、楽しみにしていると聴きますが、十分な貢献とはいえません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を活かした取り組み 「モニタリング」をした困難事例を提起し、参考としています。	2ヶ月に1回、奇数月の木曜日に、民生・児童委員、元区長、家族、町役場福祉課の参加で開催されている。入退所者状況及び生活状況、行事などの報告と合わせて、介護報給付費や処遇改善加算などについても公表している。また重病を抱える利用者の状況や、例えば「機能的便秘症」の勉強会などもあわせて行われている。また身体拘束適正化委員会も兼ねており、規制の内容などが解説され「身体拘束廃止に向けて、住民視点の意見を交えながら協議する機会」としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連携 「地域包括支援センター」と「グループホーム」とが、年2回開催しています。来期からは、年4回を目指す。 他の施設は困難(上司の理解度、同僚に仕事の負担を強いるなど)	サービス事業所連絡会が年に2回開催されており、管理者は参加している。そこでは困難事例や虐待事例など、また災害時の非常食管理などについての情報交換がおこなわれ、事業所に持ち帰り職員間で共有している。交通事情や現場の都合等で出席者が少なくなってきたが、その必要性から管理者は開催の増回を望んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束 町の指導もあり、研修は数回待ちました。 以前、夜間時、不穏・場所認知不全の利用者室に危険防止のため、「カメラ」を設置し、町から「拘束」にあたると指導を受け、危険防止のためと軽い気持ちで行った事を反省しています。「ベッド柵」「漏便防止のつなぎ服」などの家族と承諾書を交わしています。	以前に、設置された「カメラ」については撤去され、職員の巡回による安否確認が実施されている。身体拘束廃止に向けての指針及び同意書が備えられており、現在はベッド柵、つなぎ服などの身体拘束対象者が居られ、家族の同意の上で実施されている。運営推進会議では身体拘束廃止委員会を合わせて開催し、廃止に向けての指針の整備や適正化に向けて協議されている。県立但馬長寿の郷で開催される研修会に管理者は参加し、昼食時に日々行う職員ミーティングにて伝達している。	現在、拘束の対象者については家族からの同意を得ながら実施しているが、実施状況の記録が確認出来なかった。個々の「経過記録」を整備し、その記録を職員間で共有し、また家族へ開示しながら身体拘束解除に向けての方向性を共通認識することが望まれる。

自己	番号	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止 推進会議、施設内においても、虐待防止の学習をしています。	事業所理念のひとつに「独自の生活歴を有する個人として尊重し尊厳を守る」が掲げられ、施設玄関に掲示されている。毎日行われる昼のミーティングでは外部研修参加の伝達や、管理者を中心とした事例検討などが随時に行われており、職員間では、日々の関わりの中での気づきや意見を気軽に言い合える関係が出来ている。		
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度 実情を報告しています。	現在、日常生活自立支援制度の活用者が2名居られ、成年後見人制度を過去に利用されていた利用者も居られる。また一部の利用者の金銭管理については、地元の郵便局と協同して出納管理を行っている。今後はそれらの活用状況等について、例えば昼のミーティングの時間を活用するなど、職員間での共通理解に繋げて欲しい。		
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明 行っています。	管理者が契約担当者として、本人と家族のご意向を伺いながら事業所の案内と入所申込の流れを説明し、契約の際には、重要事項説明書で利用料金、緊急時の対応、延命措置及び看取り等の施設で出来る事と出来ない事について説明し、納得して頂いてから締結をおこなうようにしている。		
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関する説明 十分とはいえません。	遠方の住所や高齢化、交通事情などにより家族の来訪は少なくなってきており、直接に伺う機会は減ってきている。毎月行われているモニタリング・介護経計画見直しの際には書面などで要望を伺う機会を設けているが、家族からはあまり意見は表出されない。2ヶ月に1回開催される運営推進会議においても、出席される家族が限られている状況にあり、現在は意見の抽出の新たな手段を検討している。		
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員意見 食事時に常に相談しています。	定例として行っている、昼食を兼ねた職員ミーティングが毎日開催されており、管理者も同席し、食事を摂りながらの意見交換が日常的に行われている。職員からは忌憚のない意見が出され、管理者は法人代表でもあるため、意見が直接に届き、タイムリーに回答が得られている。介護支援専門員資格受験の相談に対しては、管理者が自ら受験対策の指導講座を開催するなど職員を育てる取組にも力を入れている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職業環境設備 今回の働き改革の大幅改訂により、再度労働条件の変更を締結した。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を育てる取り組み 本年度「ケアマネ試験」・主任ケアマネ・介護福祉士は私を含めて、あと一人をめざす。			

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内同業者のみです。全国組織には参加していません。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の気持ちを考え、希望と要望を踏まえて、買い物などにも連れて行きます。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事は、金銭的なこともあります。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	特養施設をお願いしていますが、拒否されました。 親しんだ施設が良いようです。(部屋移動も、なかなか困難です)		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に助けてもらうこともあります、意識消失状態を知らせてくれます。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現実的に、なかなか困難です。		
20 (11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現実的に、なかなか困難です。	利用者の出身は村岡町が多くを占めており、地元の方は少ない。以前はそれぞれの地元へ外出する機会を設けていたが、家族の思いなど諸事情の理由から今は出向くことは行っていない。近年、事業所が取り組んだ地蔵盆や角松の設置、梅干し作りなどの行事を地域に声かけする中で、今では地域の方が買い物ついでに事業所に立ち寄り頂いたりすることも増えてきており、新たな関係の構築に期待が持てる。	

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	現実的に、なかなか困難です。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現実的に、なかなか困難です。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23 (12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	買い物同行くぐらいです。	重度化が進み、意思が表出されない利用者が多くを占めてはいるが、本音の部分が覗えるよう、また長期に入所されている利用者についても、新たな意向出されること、また思いも変わることを念頭に置きながら、日々の関わりを大事にしている。現在は、入手された病状や心身の状況やケアの方法等については、様式「利用者日々体調状態表」を運用し共有している。	利用者の状況は刻々と変化し多様化します。日々の関わりから抽出された意向や気づきを大切に持ち寄り、個々のケアの共通理解を実現するためにも、会議録や共有ノート等の「記録」を整備し、職員間および家族との更なるスムーズな情報共有に繋げて欲しい。
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活状態、通院状況、内容を毎月報告をしています。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	モニタリングの基本でもあり、介護にとって大切な事と心得ています。		
26 (13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	排尿・着脱・歩行・褥そうなど、介護職員からの報告を踏まえ、医療連携のための貴重な資料になったり、推進会議の問題提起につながり、これらを介護計画作成に辞表者組み込んでいく。	日々の観察から個々の状態を分析し、抽出された課題について解決できないものについては役場職員からも意見を聴くことのできる運営推進会議に持ち寄っている。職員から出される気づきやアイデアは、昼のミーティングに持ち寄り、随時にサービス担当者会議を開催している。これらの結果や回答を、管理者は集約して、本人や家族からの意向とともに介護計画書に反映している。介護計画書の分析と評価は毎月行っている。	

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	独りよがり避け、職員間の提案を共有し、計画書に活かしていく。例えば、血便を伴う、(胃潰瘍の疑い、大腸癌の)などです。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業者の多機能化は、今後とも、しようと思いません。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用は「梅干し作り、一年分」、「栃餅作り、数ヶ月分」など。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診支援は、介護福祉士と共に支援、特に福祉士の勉強も兼ねています。	原則、これまでのかかりつけ医の選定が可能だが、事業所の協力医を選ばれる利用者が殆どである。定期の受診については診療所は事業所から片道10Km離れており、高齢または遠方の家族が多いため、管理者が付添いにて受診を支援している。緊急時には協力医による駆けつけが可能であるが、診療時間の都合から夜間の受診の際には豊岡病院の対応となっている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病院看護師と相談する事があります。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院は、病院、家族と連絡を取っています。	入院や緊急搬送では豊岡病院に入院するケースが多く、地理上から地域ではドクターヘリの出勤が多く、迅速な受け入れ体制が整っている。入院時には情報提供書を作成し、管理者が対応している。入院中は面会や医療機関関係者と連携して早期退院に向けた支援に努め、退院時は家族と共にカンファレンスにも参加して、スムーズな受け入れ体制に努めている。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、癌の利用者は家族の希望も有り、少しでも長く施設で過ごせるように努力しています。数ヶ月前の「白血病」の利用者にも、同じ対応をしました。	地域では特別養護老人ホーム等の重度者の受け入れ施設が少なく、開所当時から事業所は可能な限り重度者を受け入れており、終末期支援までを支援している。重病を抱える利用者も居られ、それらを含めて地域住民の終末期のステージを支援している。その支援状況については運営推進会議においても個人情報に留意しながら報告されている。身体状況が悪化した際には「終末期医療に関する事前意思表示書」に緊急時の延命措置の意向を確認し職員間で共有している。	延命における本人と家族の意向については、身体状況が悪化されたタイミングで確認されていますが、入居時の初期の段階でもご意向を確認し、備えておくことで、突然に起こる特変時のスムーズな連携・対応に繋げ、また家族にとっても今後迎える重度化や看取りに向き合う機会となることを期待します。

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	町の指導もあり、重傷者に対して実践力をつけています。		
35 (17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害、避難対策は毎年3回行っています。	山間に位置する環境から、事業所のある地域は雪と土砂災害のリスクを抱えており、河川の堤防については改修を済ませるなど自治体単位で対策を進めている。避難訓練については、事業所の大掃除と同時に年に3回行われており、利用者は避難先として連携している地域の民家まで実際に移動している。緊急時の応援体制については連絡網が整備されており、事業所の前・横の隣家や出入りの業者と連携し、救援者が駆け付けてもらえる体制を確保している。今後はハザードマップなどを用意し事業所内に掲示するなどして職員や地域住民へ発信し、更なる地域の防災意識の向上に繋げてもらいたい。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36 (18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	寝たきりで会話が乏しい人にたいして、毎日、声かけをしています。	職員は、事業所理念に基づき、個人を尊重し、プライバシーに配慮し、且つアットホームな言葉使いを心がけている。管理者は県立但馬長寿の郷で開催される研修会に参加し、昼の職員ミーティングにて伝達し、職員同士では気軽に言い合える雰囲気づくりを管理者は心がけるなどし、接遇(言葉使いなど)の徹底に努めている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定は、時々、買い物支援です。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	要介護3、4、5、が多く、あまり、出来ていません。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1人だけお化粧している方がおられます。		

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40 (19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事や片付けは、能力上、困難な状況です。	昼食は、曜日毎に固定のメニュー(種類)が作成されており、食材は地元のスーパーに職員が買い出しに出かけている。固定の職員が調理を担当し、その日の状況によってアレンジされたものが提供される。夕食は地元の新鮮な魚を使ったメニューが毎日提供されている。行事と合わさった時には要望によって別メニューが可能である。利用者は重度化が進んでおり調理や盛付等への参加が困難にあるが、利用者は食堂のテーブルを囲み、傍の炬燵に職員が揃い、ゆったりとした時間を共有している。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	便通と水分補給は常に、心がけています。機能性便秘症の方がいますので、特に注意をはらっています。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日課として、「ウガイ」をしています。		
43 (20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立支援は、なかなか困難です。	利用者の重度化が進み、現在は全員がオムツ着用であるが、居室にはポータブルトイレを設置して、職員はその人のタイミングを共有し、可能な限りスムーズな誘導を心がけている。「機能性便秘症」の利用者の排便コントロールについて協力医療機関との連携し、運営推進会議ではその状況を報告し、病状に関する勉強会も開催したことが確認できた。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の対策は、特に注意を払っています。		
45 (21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の楽しみは、歩行、立ち上がり不可の利用者が8割ですので、入浴させるのに、楽しむなどの余裕がありません。	個浴槽が設置されており、一人につき週に2回、午後2時から入浴の機会を設けている。利用者毎に担当介助者を固定することで安定した経過観察がおこなえている。脱衣場にはエキザルベ等の軟膏を常備しており、日頃から皮膚疾患に留意している。重度化した場合にはシャワー浴にて対応している。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間徘徊し他人の部屋に入出入りする人が、全く出来ていません。		



自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状の変化は、「ケアマネ・介護福祉士」の二人、「かかりつけ医」と相談しながら、行っています。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日よりの良い日は、施設内の「ベンチ」でお茶を飲みながら、談笑する時もあります。		
49 (22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	過去、外出支援に「誕生地」へ外出しましたが、家族から苦情がありました。理由は、知り合いの部落人に、現在の状況をあまり知られたくないとのことでした。	諸事情から外に出る機会は減ってきているが、月に1回の定期の受診の際には帰りにドライブを兼ね、気分転換する機会としている。また天候の良い日には窓を開放し、部屋から地域の風景を見ながら、可能な限り外気を感じる機会を日常において取り入れるようにしている。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則として、当施設は、現金と印鑑は預かりません。ただし、やもう得ない場合は、社協が管理し、社協から当施設に振り込みがあります。現在、利用者は3名です。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在は、ありません。		
52 (23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地は普通と思います。	民家を改装した建物内は、どの場所も採光が良く、スロープや手すりも配慮されている。廊下には開所当初からの利用者の写真や、行事の記録などが掲示され、内装の色合いと相まって、和んだ雰囲気を感じられた。玄関先のスペースには、管理者が設置した地蔵やベンチ、木々や花が咲いており、地域の憩いの場として開放されている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にベンチを設置しています。		

自己	第3者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真などを飾っています。	居室にはベッド、クローゼットと空調が備付られており、家具類は事業所のものも一部提供されているが、可能な限り使い慣れた物や趣味の物が持ち込み可能である。窓が比較的大きいため、風通しや採光が良く、どの部屋からも、外の景色が望め、季節が感じらる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それなりに、工夫していますが、イマイチ十分とは、いえません。		